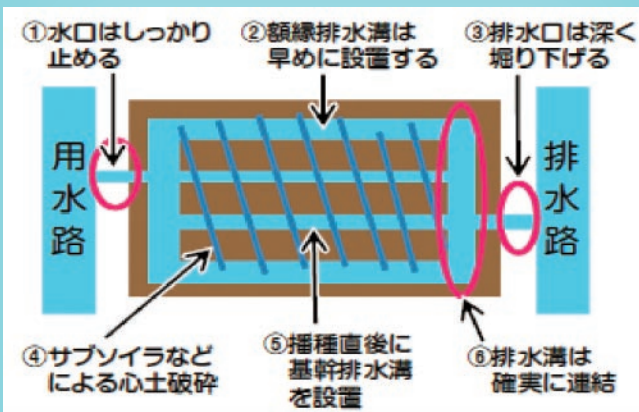


令和2年度 大豆栽培こよみ

みな穂農業協同組合
黒東地域農業技術者協議会

月	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月						
旬	中・下旬			上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬				
生育のイメージ	排水対策(額縁等)・土づくり						播種・発芽期			草丈・節数増加期			開花期			莢伸長期			子実肥大期			黄葉期 落葉期		収穫期	
	重点技術対策 ☆石灰質資材の施用と有機物の投入 ☆排水対策の徹底 ☆種子更新と種子消毒の徹底 ☆適正な収穫、乾燥調製																								
主な作業	①排水対策		②土壌改良		③種子消毒		④耕起		④播種		⑥除草剤		⑦防除			⑦防除			⑧収穫		⑧乾燥・調製				
	排水対策..... ⑤培土 1回目2回目 ⑥除草剤 畝間かん水(暑い日が続いたら) ⑦防除⑦防除 排水対策.....																								

① 排水対策



排水対策の効果

- 碎土率が上がり発芽・苗立ちがよくなる
- 除草剤の効果向上
- 根量が増え、根粒菌も増える
- 病害(茎疫病、黒根腐病)の発生抑制

② 土壌改良

- 地力増進作物のすき込みや堆肥・ケイフンを投入しよう！
- 石灰質資材の施用でpH6.0～6.5を目標に！



③ 種子消毒

- 病虫害防除の種子消毒は必ず実施しましょう

使用薬剤	処理方法
クルーザーMAXX	乾燥種子1kg当たり原液8ml塗抹

④ 耕起・施肥・播種

耕起作業の要点

- 作業速度を落とし低速のロータリー回転で行なう
- 作土深20cmの深耕
- 基肥はN成分で2.8～3.5kg/10aが目安
- 播種深度3cmの徹底
- 栽植本数の確保

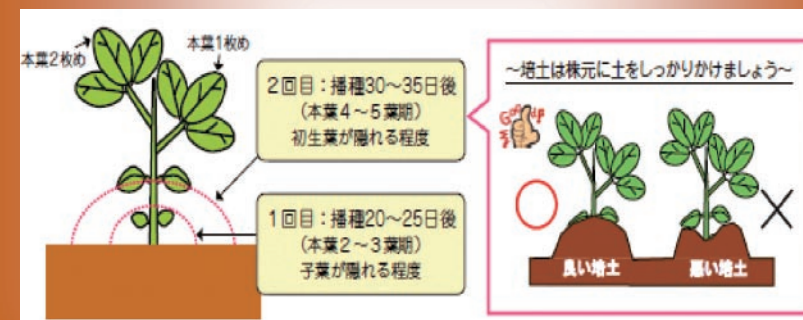
基肥資材：オール14号 20～25kg/10a

品 種	播種時期	栽植密度(本/10a)	播種量(大粒)
えんれいのそら	6月上旬	14,000～16,000	4.8～5.5
	6月中旬	16,000～18,000	5.3～6.0
シュウレイ	6月上旬	14,000～16,000	5.2～5.9
オオツル	6月上旬	10,000～12,000	4.8～5.5

一連の作業は圃場が乾いた状態で好天日に一気にやる。

⑤ 培土

- 培土を行うことにより根粒菌着生の増加
- 耐倒伏性強化・養水分の吸収力向上
- 溝を作ることで排水性の向上



⑥ 除草剤

時期	品名	10a当りの薬量	10a当りの希釈水量	特記	使用時期	総使用回数
播種後	エコトップP乳剤	500ml	100L	畑地1年生雑草	-	1回
	エコトップP粒剤	4～6kg	-	畑地1年生雑草	-	1回
生育期間中	ナブ乳剤	150～200ml	100～150L	イネ科雑草3～5葉期	収穫2ヶ月前まで	1回
	ポルトフロアブル	200～300ml	100L	イネ科雑草3～8葉期	収穫30日前まで	1回
	大豆バサグラン液剤	100～150ml	100L	畑地1年生雑草	収穫45日前まで	1回
	バスタ液剤	300～500ml	100～150L	畝間・枕地処理	収穫28日前まで	3回以内

⑦ 病虫害防除

※詳細は防除特報で確認してください

時期	農薬名	散布量(10a当たり)	対象病虫害	散布時期(収穫前日数)	総使用回数
基本防除	① スミチオンベルケート粉剤DL	3kg	紫斑病・カメムシ類	8月上旬(21日前)	2回以内
	② トライレボン粉剤DL	3kg	紫斑病・フタシジメハムシ・カメムシ類	8月中旬(30日前)	2回以内
随時防除	サイアノックス粉剤	4kg	ウコンノメイガ	開花期(7日前)	2回以内
	ボルドー粉剤DL	3kg	紫斑病・茎疫病	7月中～下旬	-

⑧ 収穫・乾燥・調製

- 青立ち株や大きな雑草は事前に抜き取っておく
- 露がなくなってから刈取りを行う
- 刈取り高さは地際から10cm以上とし、土を捲込まない

《刈取り適期の目安》



圃場のほとんどの莢が褐色になつた頃を目安に収穫開始